

第6回 ASQN (Asia Software Quality Network) カンファレンス

(一財) 日本科学技術連盟 SQiP 国際委員会

1. ASQN カンファレンスが中国・北京で開催

ASQN カンファレンスが2018年6月29日(金)に中国・北京で開催されました。



[中国・北京で開催されたASQNのタイトルスクリーン]

ASQNとは、ソフトウェア品質が課題となるなか、ソフトウェア品質向上の事例や研究などを共有し、グローバルに発信していくことを目的とした、アジア各国間のネットワークコミュニティです。活動としては、ソフトウェア品質に関連する研究や経験事例の共有をASQNセッションとして年に1回開催しています。現在、中国、マレーシア、韓国、フィリピン、タイ、シンガポール、ベトナム、日本などアジア各国のソフトウェア関連団体が、参加および参加検討中の状況です。

今回の会場は、北京市内の北京新世紀日航ホテルで、第22回 China International Software Expo (CISE2018) と併設開催されました。CISE2018は6月29日(金)から7月2日(月)に開催される、中国国内でも最大級のイベントで参加者は数万名と噂されています。北京市内の道路にもCISEの”のぼり旗”がかかっている、北京市全体のイベントだと感じられます。



[北京市内のCISEの”のぼり旗”の様子]



[ASQN 会場控室で関係者の交流の様子]

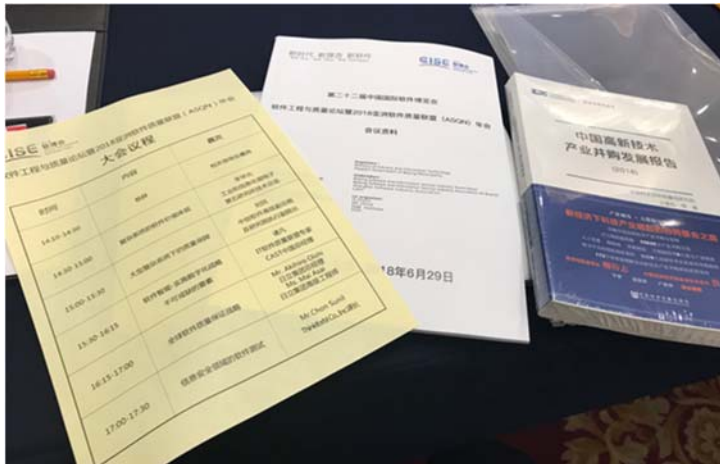
ASQN 会場の豪華な控室では、中国、韓国、日本の講演者・関係者が集まり、初めて会う方や1年ぶりに会う方などと交流を深めていました。ASQN 会場は新世紀日航ホテルのボールルームで、参加者は約 150 名を超えていました。座席が足りなく、急遽後方に席が追加されました。参加者は中国の若い人が多く見られ、服装もジーンズに T シャツといったラフな格好でした。この日、北京の最高気温は 39 度の予想で、会場の外は猛暑でしたので、涼しい服装だったのかもしれませんが。



[ASQN 会場の様子]

2. ASQN カンファレンス概要

参加者に配布された資料は、講演プログラム、発表資料、および関連図書です。参加者の多くが中国の方のため、資料のほとんどは中国語でした。



[カンファレンス資料。左から講演プログラム、発表資料、関連図書]

今回の発表国は講演順に中国、日本、韓国の3カ国です。中国から3名、日本から日立製作所の大石さん・浅井さん、韓国から1名が講演を行いました。カンファレンススケジュールは表 1. <ASQN カンファレンススケジュール>のように、14時から始まり17時半まで発表が行われました。



[中国、韓国、日本の講演者]

表 1. <ASQN カンファレンススケジュール(*)>

時間	発表タイトル	発表者
14:10-14:30	ご挨拶	(主催者)
14:30-15:00	複雑なシステムのソフトウェア価値	李華北(Li huabei)、 中国工業情報化部電子第五研究所
15:00-15:30	大規模複雑システムの品質保証	劉民(Liu Min) Zhongchuang ソフトウェア シニアバイスプレジデント
15:30-16:15	ソフトウェア知能 -デジタル戦略策定の必須要素	渚凡(Zhu Fan) キャストソフトウェア ゼネラルマネージャ
16:15-17:00	グローバル品質保証の戦略	大石晃裕/浅井麻衣 日立製作所
17:00-17:30	十分なテストをしたと どのように伝えるか?	Chon Sunil、ThinkforBL

*中国語版 ASQN プログラム

(<http://www.bsia.org.cn/fro/content.action?contentId=201806220508514941>)を翻訳



[主催者挨拶の様子]

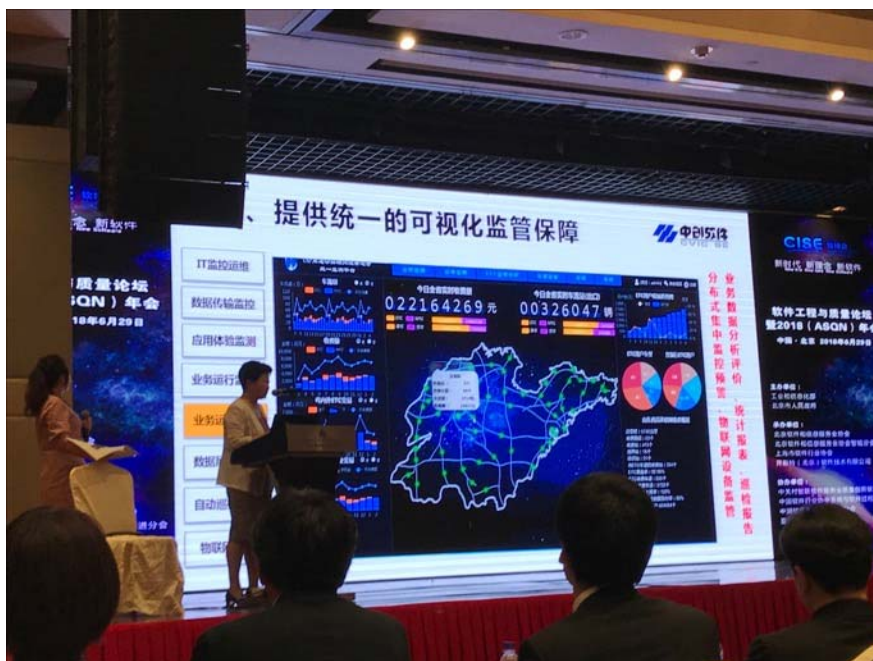
主催者挨拶は、中国工業情報化部と北京ソフトウェア及び情報産業サービス協会から行われました。

主催者挨拶の後、最初の発表は中国工業情報化部電子第五研究所の李華北(Li huabei)さんから「複雑なシステムのソフトウェア価値」の発表です。人工知能を利用した領域が伸びてきてソフトウェアは新時代に入ったという認識を示していました。その新時代の複雑なシステムにおいて、ソフトウェアは今までにない領域に適用され、その価値が高まると述べていました。



[李華北(Li huabei) さんによる「複雑なシステムのソフトウェア価値」の発表の様子]

2 番目の発表は、中国の Zhongchuang ソフトウェア シニアバイスプレジデントの劉民(Liu Min) さんによる「大規模複雑システムの品質保証」の発表です。中国全土をカバーする IT 機器の監視システムを例に、大規模複雑システムの品質を如何に保証していくか、実践的な発表がありました。



[劉民(Liu Min) さんによる「大規模複雑システムの品質保証」の発表の様子]

3 番目の発表は、中国のキャストソフトウェアゼネラルマネージャの渚凡(Zhu Fan)さんによる「ソフトウェア知能-デジタル戦略策定の必須要素」でした。この発表におけるソフトウェア知能とは、複雑なシステムを洞察する方法を指していて、例えば、ソフトウェアメトリクスや故障情報なども含んでいるとしています。そのようなソフトウェア知能として、Object Management Group(OMG)とカーネギーメロン大学の Software Engineering Institute(SEI)が設立した、Consortium for IT Software Quality (CISQ)の取り組みなどを紹介していました。



[渚凡(Zhu Fan)さんによる「知能ソフトウェア-デジタル戦略策定の必須要素」発表の様子]

さて、4 番目に登場したのが、日本から日立製作所の大石さん、浅井さんによる「グローバル品質保証の戦略」の発表です。自社における品質保証戦略として、製品やサービスの品質リスクを管理した上で、競争力も維持するという取り組みを発表しました。実際に取り組んでいる内容を踏まえた発表で、非常に説得力のある内容でした。



[大石さん、浅井さんによる「グローバル品質保証の戦略」の発表の様子]

最後の発表は韓国の ThinkforBL の Chon Sunil さんによる「十分なテストをしたとどのように伝えるか？」でした。テストケースカバレッジや原因カバレッジなど様々なカバレッジ測定を利用し、より十分なテストを実施するための方法について述べました。その方法は実際にドローンのテストを行う際にも適用したとのことでした。



[Chon Sunil さんによる「十分なテストをしたとどのように伝えるか」発表の様子]

3. 次回 ASQN カンファレンス

次回 ASQN カンファレンスの 2019 年に開催の方向で、場所と時期をメンバー各国間で現在調整中です。決まり次第、また、ご連絡します。

*カンファレンス終了後、ASQN メンバーで集合写真を撮りました。来年に向けて、これから準備に入ります。



[ASQN メンバーの集合写真]